

学校物語 (国吉小の巻5)

—キツネの報恩 (中) —

余 木 令 一

て動物」というように野に穴居する
 キツネはタヌキ(狸)と共に入
 間をたぶらかす代表的なケモノ
 と信じられていた。昔は、ハナ
 の世界にでるときは、いたずら者とし
 てあらわれてくる。
 だがキツネが人をたますしぐさ
 には、どこかユーモアがひそん
 でいる。木の葉を金の小判と見
 あやまらせるとか、遠い道のり
 を歩むのに同じ所をぐるぐるま
 わらせるとかいった、たあいも
 ないものばかりで、映画やテレ
 ビにみる人間の凶悪さは、お
 よそ似ても似つかぬものだ。
 ましてや実際にはケモノが天勝
 もどきの奇術魔術など使えるわ
 けはなく、人間がおのれの間拔
 けさを弁護するために、勝手に

余談に少し
 つたつた少
 ても許さる
 ことといた
 てて、お許
 識といこう
 近代的西洋
 人のキツネ
 念は貴婦人
 のエリマキ
 とだけ結び
 つく存在で
 しかなく、
 しかなない
 も知れない
 しめし字引
 をめくると
 キツネとは
 「性質がこ
 うかつで山
 野に穴居す
 る動物」とい
 うように

うえがいた
 面(ツラ)の
 つてやりに
 しい。仮りに
 者ゴツコみ
 なくじら立
 なるかろう
 する認識は
 るく解する
 れる。けれど
 たわが、どう
 れないが、キ
 がむしろ強
 うか。
 舟岡部落の
 使いな(あた
 意味な仇(あ
 とはもちろ
 たたりなし
 もとらす、積
 方法を策す
 つた。
 そして、その
 きめて、部落
 がわるキツ
 ものをそつ
 運び、仔ギ
 したといふ
 いうべきで
 話はこの後
 べその後日
 べるであら
 う。

うえがいた
 面(ツラ)の
 つてやりに
 しい。仮りに
 者ゴツコみ
 なくじら立
 なるかろう
 する認識は
 るく解する
 れる。けれど
 たわが、どう
 れないが、キ
 がむしろ強
 うか。
 舟岡部落の
 使いな(あた
 意味な仇(あ
 とはもちろ
 たたりなし
 もとらす、積
 方法を策す
 つた。
 そして、その
 きめて、部落
 がわるキツ
 ものをそつ
 運び、仔ギ
 したといふ
 いうべきで
 話はこの後
 べその後日
 べるであら
 う。



合世
 しとせ
 外田
 てい